



ちけん君

# NEWS LETTER

## 平成 26 年度 採択された先進医療シーズ

本年度は、近い将来先進医療申請が可能なものなどのシーズを募集し、先進医療推進委員会で 3 件の研究が先進医療シーズとして新規採択されました。現在 24 年度、25 年度に採択された先進医療シーズの継続分と合わせて 8 件の研究をバックアップしています。(下表)

診療科	責任者	研究題目
血液・腫瘍内科	岸 慎治	血液がん薬物療法における Key drug の治療薬物モニタリングと遺伝子多型
神経内科	濱野 忠則	ピタバスタチンのアルツハイマー病治療への応用
循環器内科	宇隨 弘泰	血清サロゲートマーカーによる糖尿病患者の冠疾患イベントリスク評価
感染症・膠原病内科	田居 克規	日本紅斑熱患者における重症化機序解明に関する研究
子どものこころ診療部	友田 明美	f MRI による愛着障害へのオキシトシン治療効果判定システム開発
呼吸器内科	梅田 幸寛	非小細胞肺癌における 18F-FLT および 18F-FDG PET 画像の有用性に関する臨床試験*
循環器内科	福岡 良友	2型糖尿病合併慢性心不全患者におけるインスリン抵抗性と心筋仕事効率との関連についての検討*
小児科	安富 素子	食物アレルギーにおける耐性獲得の新規評価方法の確立*

※:平成 26 年度新規採択された先進医療シーズ

## 平成 26 年度第 1 回 福井大学臨床研究講習会のお知らせ

日時 : 平成 26 年 7 月 9 日(水) 17:30~18:30

場所 : 臨床大講義室

題目 : 『臨床研究に求められる倫理の基本と研究の実際』

講師 : 看護学科 上野栄一先生

対象者 : 教員、医師、看護師、その他医療従事者、臨床研究に携わる者

ヒトを対象とした臨床研究を実施にあたっては、事前の講習会の受講が必須となっております。

受講の有効期限は

**3 年度間**

となっております。

有効期限が切れる方は、受講してください。



## 現在募集中の治験

診療科	対象疾患	診療科	対象疾患
子どものこころ診療部	自閉性障害	脳脊髄神経外科	脳硬膜欠損および脳硬膜縫合不全
子どものこころ診療部	小児強迫性障害	皮膚科	MRSA 感染症
子どものこころ診療部	小児注意欠陥・多動性障害(INTUNIV®)	血液腫瘍内科	急性骨髄性白血病(第Ⅲ相)
神経内科	中等度・高度アルツハイマー型認知症	血液腫瘍内科	末梢性Tリンパ腫
整形外科・脊椎外科	慢性腰痛	血液腫瘍内科	高齢急性骨髄性白血病
呼吸器内科	喘息		

現在、高齢急性骨髄性白血病(AML)を対象とした治験を実施されている、酒巻一平先生からお話を伺いました。



**Q1. 高齢者における急性骨髄性白血病(AML)の治療の現状について、分かりやすく教えて頂けないでしょうか？**

高齢者の白血病患者さんは増加していますが、若年者に比べ臓器障害等のために抗がん剤等を減量せざるを得ない場合も多く、そのため治療成績は決して良いとは言えない状況です。

**Q2. この分野でどのような新薬を期待されますか？**

慢性白血病に対してはすでに画期的な分子標的薬の登場により治療成績が向上していますが、急性白血病に対して画期的なお薬が出て来ていないのが現状です。分子標的薬や抗体の登場を期待します。

血液・腫瘍内科 助教

酒巻 一平 先生

**Q3. 今回の治験薬はどのような薬なのか？**

急性骨髄性白血病細胞は WT-1(Wilm's tumor gene1)遺伝子を高発現していますが、これを標的としたペプチドワクチン療法です。標準的な抗がん剤治療にて完全寛解となった患者さんに対して WT-1 ワクチン(OCV-501)を腋窩または鼠径部に皮下投与し、自己免疫にて白血病細胞の増殖を抑えて再発予防を期待します。

**Q4. 本治験に参加される方へのメリット、デメリットについて先生のお考えをお聞かせいただけますか？**

通常であれば治療終了後に経過観察をしている期間にワクチン投与しますので、効果があれば寛解期間の延長、再発率の低下が期待できます。デメリットとしては、プラセボ対照比較試験なので効果のないプラセボが投与される場合があること、最初の8週間は毎週、その後2年間は2週間に1回の皮下注射に通っていただくなくてはならないこと、皮下注射部位をはじめとしたアレルギーの可能性があること等があげられます。

**Q5. 治験、臨床研究に対する先生のご意見をお聞かせ下さい。**

基礎研究が臨床に応用されるまでには長い年月がかかります。私のアメリカ時代のボス、Larry W. Kwakはがんワクチンの世界的権威ですが、基礎研究の開始から臨床研究の成功を収めるまでに20年以上を要しています。臨床試験は試験自体に長い年月が必要であり、試験が終わった時点でその治療が最新最良の治療ではない可能性もあります。免疫学、免疫療法は現在も急速に進歩し続けており、これからも治療成績の向上を目指して多くの治験、臨床研究がなされ、より良い治療法が開発されることが望まれます。

**Q6. CRC へのご意見、ご要望等ありましたら、一言お願いします。**

いつも助けていただいて感謝しています。大学病院においては今後治験や臨床研究が増えていくでしょうし、また増えていかないといけないと思います。CRC の人数が増えてくれると良いのですが…。

酒巻 一平先生、お忙しい中ご協力いただきまして、ありがとうございました。

**【お問合せ先】**

福井大学医学部附属病院 治験・先進医療センター

電話 0776(61)8529

Email chicken@ml.cii.u-fukui.ac.jp

Vol.8 No.2 (平成 26 年 7 月)

